

## 1月度の観察記録

カテゴリ : 2020年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2020-2-2

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2020年??1月?12日(日) 9:30~12:40 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子  
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?24名, 子ども?15名 天気: 曇り 寒い朝になりました。この日は自然観察会の代表が別の行事に参加して不在のため、代わりに案内役の男性のリードで越冬中の昆虫を探しながら歩くことになりました。それぞれの生きものの見つけにくさから設定された点数の表が用意され、参加者は見つけたものの点数を確かめながら多くの生きものの冬の姿との出会いを楽しみました。

里山の家での持ち込み観察項目: ヒメアカネの卵, ショウジョウトンボのヤゴ, イトトンボのヤゴ, マツバラン, カキの古代種の化石, ニホントカゲ

? 案内役の男性から、ひとまず中道を一番奥まで歩き、戻りながら観察することが提案されました。ただし最初の手ほどきとして、歩き始めてほどなくたどり着いたツバキの前で、その木で越冬している昆虫を探してみました。すぐに見つける人、なかなか見つけられない人、さまざまでしたが、目の高さの葉裏にいたのはウラギンシジミでした。そのあとは一路奥を目指して歩きましたが、途中畑の脇で咲いているソシンロウバイの香りを嗅いだり、道端に落ちていたシマヘビの死骸を観察したりしました。





ウラギンシジミ ソシンロウバイ 死んだシマヘビ 目的の場所に近づいたところで道沿いのササにオオカマキリの卵鞘がついているのに気づきました。点数表では20点です。オオカマキリの卵鞘はその付近で次々と3個見つかりました。そして目的地で紹介されたのは枯葉のかたまりにとまって冬を越すテングチョウでした。そこにいますよと教えてもらってもすぐには見つけれない参加者がほとんどでした。このあと、その周辺でしばらく各自生きものを探す時間が設けられ、参加者は思い思いの場所を探し始めました。そしていろいろな生きものが見つかりました。ニイニイゼミの抜け殻を見つけた男の子がいました。点数表では1点でした。女の子が草むらでヨトウガの幼虫を見つけました。アベマキの枝でドクガの幼虫を見つけた男性もいましたが、ガの幼虫は点数表には載っていませんでした。





オオカマキリの卵鞘 テングチョウ 何が隠れているでしょう？



ニイニゼミの抜け殻 ヨトウガの幼虫 ドクガの幼虫 別のアベマキでヤママユの卵が見つかり、点数は40点で比較的高得点でした。この時期の卵の中はもう幼虫になっているとのことでした。竹の皮をはがしてみると、うっすらとはった網の中でクモがじっとしていました。また積んであった竹を割ってみると、中にはアリの巣ができていて、卵や繭を守る働きアリたちが右往左往していました。



ヤママユの卵 クモの仲間 割った竹の中のアリの巣 竹の根元で落ち葉をめくると裏にヒルのような生きものがくっついていました。初めはナメクジほどの大きさでしたが、葉を手に乗せると体温で温められて動き出しました。みるみる伸びたその姿からコウガイビルとわかりました。積んだ竹の中からはクロゴキブリやコガタスズメバチの越冬女王バチが見つかりました。少し移動すると外来種のムネアカハラビロカマキリの卵鞘が見つかり、点数が決まっていなかったのが、在来のハラビロカマキリを脅かす存在だからマイナスにしようか、という意見も出ました。



コウガイビル クロゴキブリ ムネアカハラビロカマキリの卵鞘 木の根元を掘ると大きな**トビズムカデ**が出てきました。夏に見るムカデは素早く動きますが、これはゆっくり歩いていました。果樹園のエリアではカキノキの幹でキイロテントウが見つかりました。また、案内役の男性が下見で見つけたタテジマカミキリが紹介されました。カクレミノの幹を食べるカミキリムシで、その食痕が冬越しの姿を見つけ出す目印になるとのことでした。付近のカクレミノを調べてみましたが、食痕のあるものはなく、カミキリムシも見つかりませんでした。**キイロテントウもタテジマカミキリも**頭部を下にしていました。そうした冬越しの姿を多く見かけるそうですが、その理由はわかっていないようです。



トビズムカデ キイロテントウ タテジマカミキリ コデマリの葉を巻いて巣を作り中で冬を越す  
チョウ、**ホシミスジの幼虫**が紹介されました。幼虫は若齢で越冬するそうで、葉を巻いて作ったと  
ても小さな巣の中に入っていました。そしてよく見ると巣を作る葉の付け根は幼虫が吐いた糸で補  
強されて、葉が枯れても簡単には落ちないようになっていました。同じコデマリに大きな**ミノムシ**  
がくっついていました。戻る途中の道すがら、**モチツツジ**の花が咲いているのを見ました。今年は  
気温の高い日が多いためか、狂い咲きするツツジがよく見られるとのことでした。



ホシミスジの幼虫の巣 ミノムシ モチツツジ 道沿いのナンテンの赤い実がよく目立っていました。昔、人の手によって植えられたようですが、以前より数が増えているように見えました。終わりの時間が近づき、里山の家近くのエノキの根元でゴマダラチョウの幼虫を探すことになりました。幹に近い落ち葉を何枚かめくると、すぐに幼虫が見つかりました。最後にバス通りに出て、木の枝にひっかかったボール状の枯葉にとまっているムラサキシジミを観察しました。車や人がひっきりなしに通る道沿いでも越冬場所として選ばれるのが少し不思議でした。



ナンテン ゴマダラチョウの幼虫 ムラサキシジミ

いないと思っていたのに、たくさんの虫との出会いが思いがけなかったとの感想が聞かれました。  
この日の名古屋は最高気温が10 に届かず、冬らしい一日にふさわしい観察会となりました。

里山の家での振り返りでは、冬は生きものが

平和公園での観察項目：ウラギンシジミ, モリチャバネゴキブリ, 死んだシマヘビ, ロウバイ, ツバキ, オカマキリの卵鞘, クモの仲間, クモの卵囊, ニイニイゼミの抜け殻, テングチョウ, ヨトウガの幼虫, ハエの幼虫, スイセン, ヤママユの卵, ドクガの幼虫, アリの巣, ウメについたキノコ, キシノウエトタテグモ, コウガイビル, クログキブリ, コガタスズメバチの越冬女王, トビズムカデ, ナメクジ, ダンゴムシ, ジョウビタキ, キイロテントウ, オオフタモンウバタマコメツキ, コクワガタ, タテジマカミキリ, ホシミスジの幼虫の巣, カミキリムシの幼虫, モチツツジ, ゴマダラチョウの幼虫, エノキ, ムラサキシジミ?